

平成16年度病害虫発生予察 予報第4号

平成16年7月16日
長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【気象（平成16年7月9日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、期間の初めは曇りや雨の日が多く、その後は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。降水量、日照時間は平年並の見込みです。週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並が高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（穂いもち） 紋枯病 穂吸汁性カメムシ類	- やや少 やや少	並 並 並
普通期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病 縞葉枯病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	やや少 並 並 やや少 やや少 少	やや少 やや多 やや多 並 並 並 やや少
大豆	ハスモンヨトウ	-	並
トマト（苗）	黄化葉巻病（防除情報第5号）	やや多	多
いちご	うどんこ病 炭疽病	やや少 並	やや少 並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ （防除情報第6号）	やや多 やや少 やや多 多	やや多 やや少 多 多
ぶどう	べと病	少	少
果樹共通	カメムシ類（注意報第4号）	多	多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ （防除情報第7号） チャノコカクモンハマキ チャノホソガ クワシロカイガラムシ （防除情報第8号）	やや少 やや多 並 並 やや多	やや少 多 並 並 多
ツツジ	褐斑病 ツツジゲンバイ	並 並	並 やや多

【早期水稻】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. いもち病(穂いもち)

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査の結果、葉いもちの発生株率は7.5%(4.7%)、発生圃場数は40筆中9筆で、一部多発圃場があった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発生株率0.3%)。

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査の結果、発生株率は0.6%(1.5%)、発生圃場数は40筆中5筆であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生株率5%(38.4%)であった。

(3) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本病の発生に好適である。

3. 穂吸汁性カメムシ類

1) 発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の雑草地におけるすくい取り調査の結果、10回すくい取り当たりの虫数は9.6頭(17.8頭)であったが、一部地域でアカスジカスミカメの多発生が認められた。

(2) 向こう1か月の気温は、平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂期以降の除草は、本田へのカメムシ類の飛来を助長するのでおこなわない。

(2) 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなう。

表 雑草地におけるすくい取り調査結果(7月上旬調査)

種類名	H12	H13	H14	H15	平年	H16
ホリハリカメムシ	2.5	0.8	0.6	0.3	1.6	0.8
クモヘリカメムシ	1.4	0.1	0.02	0	1.6	0.1
シラホシカメムシ	1.3	0.3	0.2	0.2	0.7	0.2
アカスジカスミカメ	53.1	12.2	6.6	4.9	13.8	8.5
計	58.2	13.4	7.4	5.4	17.8	9.6

注) 数値は10回すくい取り当たりの虫数
平年値はH6~15年の最大最小値を除いた平均値

【普通期水稻】

1. いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査の結果、発生株率は0.1%(0.2%)、発生圃場数は110筆中4筆であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) BLASTAM(葉いもち感染好適日判定モデル)によると、7月以降は7月9日に芦辺

町で感染好適条件が認められた。

表 7月以降のBLASTAM判定結果

	鰐浦	葭原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	有川	大瀬戸	長崎	島原	福江	口之津	野母崎
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) : 感染好適条件
 ~ : 準感染好適条件

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 7月上旬の巡回調査の結果、発生株率は0.10% (0.02%)、発生圃場数は110筆中2筆であった。
- (2) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- (3) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本病の発生に好適である。

3. 縮葉枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 7月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(0.00%)。
- (2) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- (3) 7月上旬の巡回調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.15頭(0.02頭)、発生圃場率は110筆中26筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

箱施薬剤を用いていない圃場や普通期早植えの圃場ではヒメトビウンカの発生に注意する。

4. セジロウンカ、トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ 並
 トビイロウンカ 並

2) 予報の根拠

- (1) セジロウンカは、6月5～6半旬、7月1～2半旬に飛来が認められたが、やや少ない飛来であった(表)。
 トビイロウンカは、6月25日に予察灯(島原市)で初確認した(表)。また、7月9日に本田(東彼杵町)において成虫の寄生を確認した。
- (2) 7月上旬の巡回調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.70頭(0.60頭)であった。トビイロウンカの株当たり虫数は0.00頭(0.00頭)であった。
- (3) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.70頭(0.90頭)、トビイロウンカの寄生は認めなかった(株当たり虫数

- 0.02頭)。
 (4) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

表 予察灯における誘殺状況

月日	セジロウンカ							トビイロウンカ						
	諫早			西彼	佐世保	島原	岐宿	諫早			西彼	佐世保	島原	岐宿
	白熱	青色	ネット	青色	白熱	白熱	白熱	白熱	青色	ネット	青色	白熱	白熱	白熱
6/25	5	1	3	0	4	201	64	0	0	0	0	0	1	0
26	57	12	2	0	49	679	0	0	0	0	0	0	6	0
27	28	10	0	0	36	17	0	0	0	0	0	0	0	0
28	2	3	0	0	6	5	5	0	0	0	0	0	0	0
29	8	4	1	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
30	1	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/1	6	3	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0
2	1	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	0	0	0	51	28	7	0	0	0	0	0	0	0
4	1	2	10	0	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0
5	10	18	1	0	0	11	41	0	0	0	0	0	0	0
6	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	38	51	0	0	82	15	0	0	0	0	0	0	0	0
9	98	83	0		3	24	1	0	0	0		0	0	0
10	21	15	0			4	2	0	0	0			0	0
11	19	12	0			6	1	0	0	0			0	0
12	3	4	0			4		0	0	0			0	
13	0	0	0					0	0	0				

5. コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度 やや少

発生時期 6月6半旬飛来波による発蛾最盛期 7月6半旬

7月2半旬飛来波による発蛾最盛期 8月2半旬

2) 予報の根拠

- (1) 7月上旬の巡回調査の結果、食害株率は0.3% (4.9%)、発生圃場数は110筆中11筆であった。
- (2) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は6.0% (31.5%)で、虫齢は老齢及び中齢幼虫が主体であった。
- (3) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

【大豆】

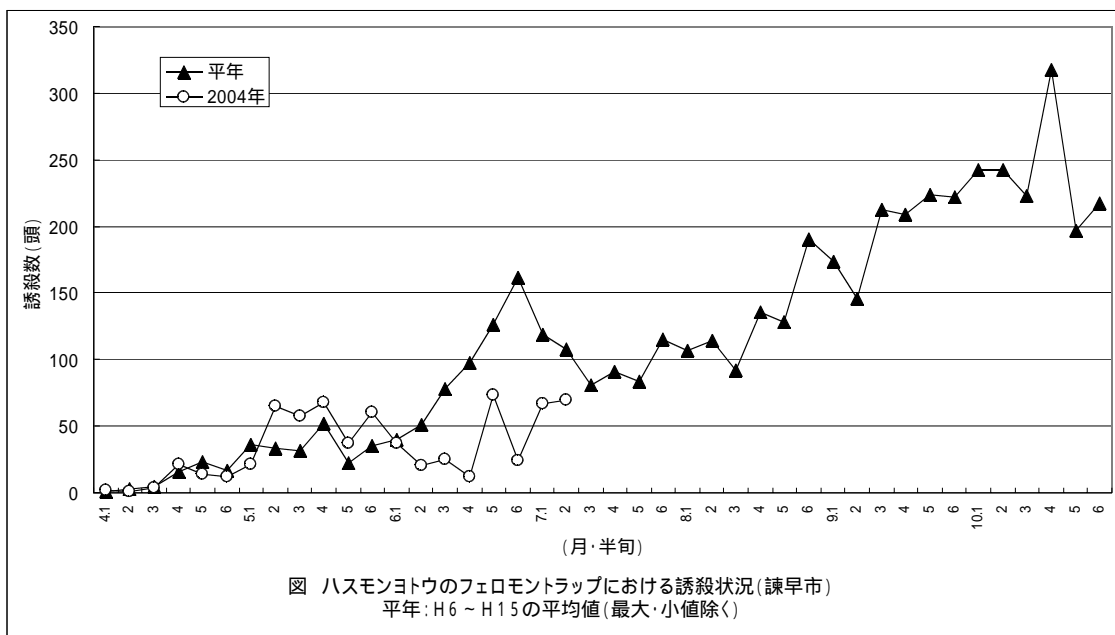
1. ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年よりやや少なく推移しているが、7月1半旬以降増加傾向にある(図)。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。



【トマト(苗)】

1. 黄化葉巻病

平成16年7月15日付け、病虫害発生予察 防除情報第5号による。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査の結果、発病株率3.4%(12.3%)、発生圃場数は33筆中13筆であった。

2. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査の結果、*C. acutatum*(通称:葉枯炭疽病)による発病株率は0.1%(0.5%)で、発生圃場数は33筆中4筆であった。また、*G. cingulata*による発病株率は0.1%(0.1%)で、発生圃場数は33筆中3筆であった。

(2) 巡回調査、病虫害防除員による調査、防除所への診断依頼などから*G. cingulata*による炭疽病が県下各地で増加している(発生確認地域:佐々町、東彼杵町、大村市、愛野町、瑞穂町、西有家町)。

【かんきつ】

1. かいよう病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は1.1%(0.3%)、発生圃場数は39筆中13筆で多発圃場もあった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、強風雨が合った場合は、直後の薬剤散布を行う。
- (2) 薬剤はストレプトマイシン剤か銅水和剤(クレフノン加用)を散布する。なお、銅水和剤は高温時に散布すると薬害が出やすいので注意する。

2. 黒点病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- 1) 7月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.2%(5.3%)、発生圃場数は39筆中3筆であった。

3. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 多

2) 予報の根拠

- (1) 7月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は23.6%(12.6%)、発生圃場数は39筆中31筆であった。
- (2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 園内のハダニの密度に注意し、多発生により被害が予想される場合は防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

4. チャノキイロアザミウマ

平成16年7月15日付、病害虫発生予察 防除情報第6号による。

【ぶどう】

べと病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

- 1) 7月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.4%)。

【果樹共通】

果樹カメムシ類

平成16年7月15日付、病害虫発生予察 注意報第4号による。

【茶】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- 7月上旬の巡回調査の結果、1㎡あたり病葉数は、3.7枚(8.7枚)、発生圃場数は20筆12筆であった。

2. チャノキイロアザミウマ

平成16年7月15日付、病害虫発生予察 防除情報第7号による。

3. チャノココカクモンハマキ

- 1) 予報内容
発生程度 並
- 2) 予報の根拠
 - 1) 7月上旬の巡回調査の結果、1㎡あたり巻葉数は0.2枚(0.2枚)、発生圃場数は20筆中4筆であった。
 - 2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)は平年よりやや多かった。(図)。

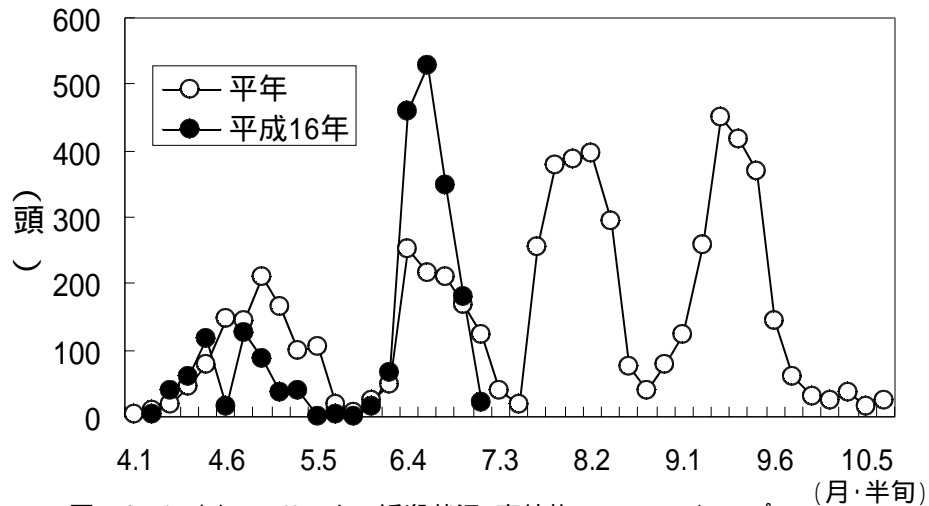


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～15年の平均)

4. チャノホソガ
 - 1) 予報内容
発生程度 並
 - 2) 予報の根拠
 - 1) 7月上旬の巡回調査の結果、巻葉は認めなかった(発生圃場率5.2% 1㎡あたり巻葉数0.1枚)。
 - 2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)は平年並だった(図)。

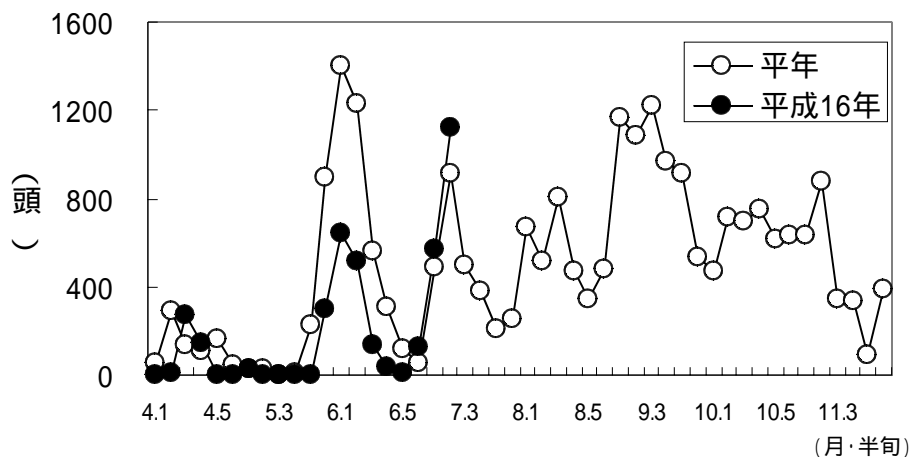


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～15年の平均)

5. クワシロカイガラムシ
平成16年7月15日付、病害虫発生予察 防除情報第8号による。

【つづじ】

1. 褐斑病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は3.1% (2.9%)、発生圃場数は11筆中5筆であった。

2. ツツジグンバイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査の結果、10株当たり寄生虫数は2.4頭 (4.4頭)、発生圃場数は11筆中5筆であった。

(2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。